

憲法週間&男女共同参画週間 市民の集い

6月2日(日)、文化ホールで2024憲法週間&男女共同参画週間「市民の集い」を開催しました。

第1部では、岸野令子さん(映画パブリシスト)に講演をいただき、第2部では、映画「チャンシルさんには福が多いね」を上映しました。参加者の方に寄稿いただきました。

きずな

第25号

2024年10月

＜発行＞
泉南市人権啓発
推進協議会

バックナン
バーはこちら



岸野令子さんより、映画

の みどころ・映画に込められた想い等の講演を聴いてから上映が始まりました。

「チャンシルさんには福が多いね」(19年制作の韓国映画)は、仕事だけが生きがいだったアラフォーチャンシルさんの人生をユーモラスに描いたコメディ映画でありました。

チャンシルさんは、不器用だけれど真っ直ぐで一生懸命。幸せの意味を探し、本当の望みに気づいて前を向く彼女に拍手を送りたくなります。身近なものや小さなことにこそ福があることを再認識させてくれました。

本を読んでいて見つけた言葉に『人生とは自分探しではない』『人生とは自分を創ることなのだ』(トル

コのイスタンブールの言葉)とありました。

人生は桜梅桃李(おうばいとうり)、自分が他人になることはできない。自分自身らしく、大輪を咲かせていけばよいのです。そうでなければ何のための人生、何のための生命(いのち)か。他人と比較する必要などまったくない。むしろ、自分の「過去と現在」を比べて成長しているかどうかです。「昨日より今日」「今日より明日」という生き方こそ大事です。

(鳴滝校区 原 憂子)

【参加者の声】

◆男女関係なく自分の思うとおり生きることの大切さを知りました。(70歳代)

◆丁寧に描かれた映画でした。自分のことが一番わからないものです。自分と向き合う作業は大変ですが、よりよく生きるにはとても大切なことです。(70歳代)

◆物事のとらえ方で幸せはいつも近くにあると感じられることが豊かな生活、人生になるのかなあと感じました。(40歳代)

◆いろいろな面で、勉強になりました。(60歳代)



駅頭啓発を市内4駅で行いました！

4/26(金)「憲法週間&男女共同参画週間」の啓発を行うため、市内4駅(JR和泉砂川駅、新家駅、南海樽井駅、岡田浦駅)で早朝の約1時間、人権協役員・市職員のメンバーでポケットティッシュを配布しました。



通学・通勤で急いでいる中、多くの市民の方がポケットティッシュを受け取ってくれました。

「ABC まつり」に参加しました！

4/28(日)文化ホールで「ABC まつり」が開催され、人権啓発推進協議会では、人権啓発ブースを展開しました。人権協の活動内容を紹介したパネルの展示、ブースに来てくれた人たちに、



啓発物品と色とりどりの風船を手渡しました。

ホールでは市内中学校の吹奏楽部・ダンス部の発表、中庭ではマルシェ等があり、天気にも恵まれ、たくさんの方でとても賑わっていました。



人権 フィールドワーク

6月5日(水)人権協フィールドワーク「古都・奈良で人権文化の伝統と歴史を学ぶ」を開催、35名の方に参加いただきました。フィールドワークを通じて、地域の歴史と国史跡・北山十八間戸との関わり、周辺にある人権スポットへ直接出向き、ハンセン病について学習しました。



晴天の朝、市役所を出発、予定通り『奈良市北人権文化センター』に到着しました。松田(まつた)所長の講演では冒頭、センターは現在指定管理者制度で東之阪町自治会が運営している事、松田さんの祖先は東大阪枚岡神社の神人(じにん)で、人でも神でも無い中間的な存在故に差別的な扱いを受けていた、という説明がありました。続いて北山十八間戸の設立の歴史や役割、皇族支援、神社・大和人への補助、現在地への移転など詳しく話していただき、参加者も熱心にメモを取り聞いていました。

昼食後のフィールドワークは、「奈良豆比古(ならづひこ)神社」からスタート、境内には舞台と三棟の神殿があります。祭神・春日王がハンセン病に罹った(かかった)際、二人の王子が病を治すため、翁舞(おきなまい)を奉納、その舞が各地の芸能ルーツになったとの言い伝えがあり、平成12年に国の重要無形民俗文化財に指定されています。神社の裏には、樹齢千三百年といわれる、幹回り12m超の樟(くすのき)があり歴史を感じさせられました。

その後、般若寺の楼門を経て旧奈良監獄に移動、ここは明治ロマネスク様式五大監獄のひとつで現在ホテルに改装工事中で、併設する博物館には監獄関連のほか東之阪地域差別の歴史資料も展示するよう働きかけています。更に少し歩いて北山十八



間戸に到着、鎌倉時代に建てられたハンセン病の療養施設で、江戸寛文(かんぶん)年間(1761-1771)に元の般若寺付近から移築されました。仏間と天井が低く狭い部屋が18戸並ぶ長屋建てですが、移築時に療養室の窓から大仏殿が見える向きにしています。古都奈良の人権文化の歴史を学び、帰路の車内では和やかな雰囲気でした。談、有意義な一日でした。

(人権協会長 張戸 節雄)

参加者の声

◆人権センターでの講演がとても良かった。奈良北山の歴史を知るいい機会となった。

◆般若寺・旧奈良監獄は、外観ではあったが、ガイド松田さんが熱心に丁寧に説明していただき、有難かった。日頃は素通りしていた街が、古代ロマンをふんだんに持っていることに見方が全く新しい目線になった。(70歳代)

◆ハンセン病で差別を受けていた人たちの思いの一端に触れられて良かった。(70歳代)

◆行きのバスの中で、事前にビデオで学べたので、理解が深まった。(40歳代)

◆今まで自己流で考えていた事と違う事を勉強した。ためになったと思う。(70歳代)

◆北山十八間戸と神人との間を詳しく説明してくださって、大変良かったです。(80歳代)



非核平和の集い

泉南市では、平和の意味や大切さを考える機会とするため、毎年8月を「非核平和月間」とし、様々な取り組みを行っています。

8月4日(日)文化ホールにおいて、2024「非核平和の集い」を開催し、戦争末期の昭和19年から戦後までを舞台にした感動の実話「あの日のオルガン」を、上映しました。

疎開先では、食料難で地元住民から歓迎されず、食料を確保する苦労や、園児たちとの生活で日々噴出する様々な問題に意見が衝突しながらも、励まし合い協力し合い、園児たちを守り抜くために奮闘す

この映画は、太平洋戦争末期に保母たちが幼い園児たちとともに集団で疎開し、東京大空襲の戦火を逃れた「疎開保育園」の実話を基にしているようだ。学童(集団)疎開については知られているが、疎開保育園のことは初めて知った。

今年は広島・長崎の被爆、太平洋戦争終戦79年目になる。'84年に泉南市は、「『非核三原則』の厳守を政府に強く要望するとともに、市民に対し核兵器廃絶の啓蒙活動を行いつつ、核兵器の廃絶を全世界に訴え」「非核平和都市」の宣言を行った。当日のプログラムに掲載された非核平和都市宣言全文を読み、この映画を鑑賞した。

る保母たちの姿が描かれていた。

映画では戦争の悲惨さや被害を前面に出していないが、戦争により弱い立場の子どもたちが家族を失い、辛く苦しむということを強く感じさせた。

戦争は多くの犠牲を生み出す破壊的な行為であり、現在、未来の子どもたちが平和で安全に生活できる戦争(核兵器)のない世界を実現することが必要だ。そのため私たち一人ひとりが平和のために何ができるかを考え、行動することが大切だと改めて感じた。

(人権擁護委員

檜山 政宏)



校区の集いが開催されました



信達小学校(R6.5.24)
内容:「手話×エンターテイメントでバリアクラッシュ」
講師:手話エンターテイメント発信団 oioiさん



鳴滝小学校(R6.6.1)
内容:「あなたと私は最高作品」
講師:ホゼア・ペーカーさん



一丘小学校(R6.6.8)
内容:「ネット・スマホの賢い使い方」
講師:富田 幸子さん



樽井小学校(R6.6.25)
内容:「メディアリテラシーと情報モラルについて」
講師:豊田 充崇さん

初!西信達中学校(R6.5.31)での開催!

今回の西信達校区の集いは、保育園・小中学校&地域合同で、避難訓練・防災講演・体験型ワークの三部を予定していましたが、あいにくの雨で第一部の避難訓練は中止となりました。

第二部では、(二社)おいしい防災塾代表・西谷真弓さんが、自身の神戸震災体験を基に小学生にもわかりやすく日頃の準備や心構えを話していただき、子どもたちも熱心に聞き入っていました。

午後からの第三部、中学生が袋詰め餡やスナック菓子を使った防災ポシェット作りに挑戦、先生方も参加して出来上がりを比べるなど、楽しい一日でした。

第一部の中止は残念でしたが、今まで小学校で開催していた校区の集いを今回初めて中学校で開催しました。今後も児童・生徒や先生方と協力し、一園二校と地域の連携を深めたいと思います。

(西信達校区 柿本 繁雄)



人権協総会 記念講演会

5月18日、会員並びに来賓の方々の出席のもと、令和6年度の総会を開催しました。昨年行いました様々な事業を報告した後、本年度の活動計画・予算案・新役員体制が承認されました。総会後には、記念講演会が行われました。



きたば よしのぶ
北場 好信さん
茨木市市民文化人権・男女共生課
総持寺いのち・愛・ゆめセンター
総合相談員



5月18日(土) 泉南市人権啓発推進協議会の総会が行われ、総会終了後、「人と地域がつながる地域共生社会をめざして」重層的支援体制整備事業の重要性」の講演が行われました。高齢化や人口減少が進み、地域・家庭・職場という人々の生活領域における支え合いの基盤が弱まってきている社会において、地域の中で人と人・人と資源が、「丸ごと」つながるにはどうすればいいのか、ご講演いただきました。

会加入率の減少等)のお話を交えながら、お互いがお互いを支え合って、地域をともに創っていくためには、また世代や属性を超えて交流できる場を整備するには何が必要なのかを、国の資料を基にわかりやすくご説明いただきました。

講演の中で、グループワークの時間もあり、席の近い方と、これからどのような地域にしていきたいかを話合いました。他地域に住んでいる方との意見交換だったので、各々新しい発見があったことかと思えます。

密度の濃い、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。

【参加者の声】

- ◆今日の講演を聞いて、少し席の前後の方と話をさせてもらいましたが、それぞれの地域でも少子化・高齢者の独居が進んでいること、コロナ後から外出機会が少ないということを話し合いました。地域にかえって、できることを少しずつという言葉を合言葉につながりづくりのきっかけになれば良いなと思いました。(40歳代)
- ◆今後の生活に役立てていきます。近所の人たちと話し合いの場を作って、生活を進めていくことにします。(80歳代)
- ◆グループワークではとても活発な意見交換、色々な意見を聞くことができ、とても有意義な意見交換会でした。(70歳代)
- ◆講師が民生委員だったので共感できる場所が多かったです。(70歳代)
- ◆地域の悩みはみな一緒やなと思いました。(60歳代)

各校区人権協でも総会を実施しました

泉南市人権啓発推進協議会は、人権の大切さについての理解と認識を深めるため、より一層地域に密着した啓発活動をおこなえるようにと設立された9つ(新家・雄信・樽井・鳴滝・一丘・砂川・西信達・東・信達)の校区人権啓発推進協議会から成り立っています。

今年度は各校区においても総会が実施され、令和5年度の事業・決算報告・令和6年度の事業計画・役員・予算が承認されました。

鳴滝校区は昨年度に設立されたところで、初めての開催となりました。

総会後には、人権についての見識を深める研修会を行っています。

今年度は「ヤングケアラーについて」をテーマに、研修を行いました。

栃木県が作成したヤングケアラー啓発動画(短編ドラマ)を視聴しました。ヤングケアラーとは何なのか、ヤングケアラーへの支援としてどのようなことができるのか等を学ぶことが出来ました。

編集後記

令和5年5月より新型コロナが「5類」に移行してから、感染は減少傾向にありましたが、一年が過ぎたころから徐々に患者が増えました。市民の集いやフィールドワークなど多くの参加者がある中、感染が心配されましたが、無事にたくさんの企画が開催されたことに感謝します。

今後も企画実行委員会をはじめ皆さんで魅力ある企画を考えていきます。
(企画実行委員会 編集委員(阿))